

## 来賓挨拶

高知女子大学学長

池 川 順 子

第18回高知女子大学看護学会おめでとうございます。平成6年、再来年が第20回看護学会だそうなのですが、今年は考えてみましたら高知女子大学看護学科の40年になります。そんな思いをしながら、伺っていたわけでございます。

高知県の地域の各地から、また全国の各地から、また海外からも今日は御参集されているようでございまして、色々な分野で御活躍の方々が、こうやって年に1回お集まりになるということは、本当に素晴らしいことだと私は思っております。色々な同窓会、卒業生の支部会とか会合へ出ますと、随分看護の方が活躍されているのが分かります。女子大の同窓会というのがありますけれども、こんな形で研究、実践、その成果を語り合い、そしてまた持ち帰るといふこのような集いで結ばれる看護の学会は本当に素晴らしいと思うわけでございます。

昨年からナイチンゲールの誕生日を記念いたしまして、看護の日が設けられ、またそれを含む看護週間がつくられて、非常に看護に対する世の中の考え方や政策が進み出したわけでございます。その原因は、人手不足のような量的なものもありますが、質的に看護を高めていかなければいけないとの流れです。その量と質の、場合によっては矛盾する点もありますけれども、とにかくにも量と質の追求が非常に大きな目標として取り組まれるようになりました。

この高知女子大学看護学科は、全国で最初の4年制大学の看護学の教育、研究機関として老舗を誇っているわけでございまして、その意味では質の向上に非常に大きく貢献してきたわけでございます。僅か1学年定員20人であるわけですが、卒業生は本当に全国あるいは地域の各地で活躍されています。こんな少ない定員の40年足らずの間の卒業生の方々が、これだけ社会の各分野の中心になっているのかと、ちょっと私など驚くわけでございます。先ほど会長も少し触れられていましたけれども、高知女子大学看護学科もこれから益々充実、発展をしなくてはならないということ、設置者の方にもお願いをしているわけでございます。

7月24日に第1回の県立大学改革検討会議が開かれ、もう論議が始まったわけですが、私はそこで全体的な説明を致しました。中でも看護学科、つまり学部新設のことについては特にお願いをしたわけです。全国的に看護大学や看護学部が新設・増設ブームですが、一番の老舗である本学は、看護学科の卒業生をスタッフとして供給し続けてきました。人材を育て、それを全国に供給してきた「誇り」を持っているのですが、もうそろそろ私達の看護学部への充実につながらないと、「ほこり」に埋もれてしまいますと申し上げました。今まで日本の看護の世界に貢献してきた者も

ネットにしながら、私どもを立派にして下さいとお願いしているのです。

皆様のこの今日、明日の集いが更にこれが今までと違って、研究発表と領域別の分科会を設けているそうでございまして、これはやはり質と量の蓄積と充実を反映していると思うわけです。今日、明日の学会員の皆様の会合が、高知女子大学看護学会の更なる発展につながるよう御期待申し上げます、私のご挨拶と致します。